

2023年度 第30回 水源連総会決議（案）

各地の水源連会員からは「こんなに素晴らしいところに全く無駄なダムを造るな」、「絶対に起業者の思う通りにはさせない、人権と大地を守り抜く」という共通の強い意志の報告が届いています。

石木ダム問題と川辺川ダム復活問題に対しては、ダムの中止早期実現を目指して、現地の反対運動との連携強化をさらにはかっていきます。

石木ダムの工期期限とされている2025年度に石木ダム建設事業が完成する見込みは全くないことから、前回の再評価から5年目にあたる2024年度には、再評価が行われることが確実です。この再評価時には「人権破壊・環境破壊・まったく無駄な投資しかもたらさない石木ダム事業計画は中止！」の大きな声が全国津々浦々から届くよう皆さんと共に尽力します。

2020年7月集中豪雨の洪水被災者らの懸命な球磨川水系激甚水禍実態検証は、流水型川辺川ダムがあつたとしても治水には全く効果がないこと、ダムは川辺川・球磨川を死の川にしてしまうことを明らかにしました。これらの検証成果をもとに、水源連としても全国の皆さんと力を合わせて、「川辺川ダム事業計画白紙撤回」と「川辺川ダム建設の法的根拠となっている河川法の抜本的改正」に尽力していきます。

その具体策として、水源連は

まず第一に現地の状況を水源連ML・ホームページ等で伝えていくとともに、水源連が参加している「公共事業改革市民会議」と情報を共有し相互支援をはかります。

さらに、国会の超党派議員連盟である「公共事業チェック議員の会」が改称して発足した「公共事業チェックとグリーンインフラを進める会」を始めとした国会議員との連携を深めて、議員団による現地視察・関係省庁へのヒアリング等の実践をはかると同時に、水政策改革などの国政改革へのはたらき掛けに努めます。

今年も水源連は全国の有志と手を取り合って、人権と環境を無視した非合理的なダム建設を断念させる運動に取り組んでいきます。

2024年1月 第30回水源開発問題全国連絡会総会出席者一同